



いよいよ、各リーグも後半戦がスタートしました。熾烈な順位争いによる厳しいゲームがこの後続くと予想されますが、良いパフォーマンスを発揮していただければと思います。競技規則の変更の適用も各リーグで始まっております。先月審判委員会で行いました競技規則改正に関わる説明会での質問事項を掲載しますので、参考にしてください。また、令和元年度のインターハイの報告書も合わせて掲載いたします。

【競技規則改正説明会 Q&A】

Q1: チーム役員への懲戒罰

反則を犯したものが特定できない場合の対応で、上位コーチが罰則となるのですが、その反則を犯した者がベンチにいる交代選手、その交代選手を特定できない時も、上位コーチになるのか？ベンチで反則を犯したものがどの役員なのか交代選手、あるいは交代で退いた選手なのか特定できないケースですが、ベンチにいるものの誰かが特定できないケースです。

⇒ テクニカルエリア内にいる上位の責任者

Q2: ドロップボールの時に、4m離れたところでの競技者のポジション

PA近くで、攻撃側にドロップボールが与えられました。4m離れたPA内に守備側チームは壁を作って守備に備えます。この時、相手は守備側が3人以上の壁を作った時は、1m離れますか？

⇒ 「FKの壁」とは違うと判断します。この時のことを壁と呼んだとしても、それは「FKの壁」とは同じように判断しません。競技規則では、ドロップボールの時、他のすべての競技者は、ボールがインプレーになるまで4m以上ボールから離れなければならないと書いてあります。ドロップボールから直接得点はできません(第8条p88)。このケースでは、ゴール方向で、競技者のポジション争いもあることを、審判員はマネジメントすることが求められると思います。

Q3: チーム役員の出場

(高校チーム、グラスルーツのチームならでは)ベンチに監督一人のチームが、試合中に監督が出場になった場合、ベンチに誰もいなくなります。どうなりますか？

⇒ (そもそも、ベンチに監督が一人という状況を自覚、責任ある態度で行動することが大前提だと思います)試合は続けられ、チームの責任はキャプテンが担うようになると思います。

Q4:すばやいFKの再開と、乱暴な行為の対応と記録

DOGSO のケースで、主審が笛で止め素早くFKを始めた時には、懲戒が軽減され警告になりますが、DOGSO を止めた反則が乱暴な行為の時も軽減されますか？また、この競技者が、次にも乱暴な行為で相手に挑んだ時、記録はどうなりますか？

⇒ 1)軽減されるケースは、DOGSO という場面を止めたファウルであり、トリッピングやホールディングのようなファウルです。乱暴な行為であれば、基本、そこで退場にするためレッドカードを示すこととなります。乱暴な行為によって、ほとんどありませんが、すばやいFKを認めた場合があったとしても、乱暴な行為のレッドカードは、退場の扱いであり軽減されません。

⇒ 2)乱暴な行為で、万が一に、ADV やすばやいFKを認めたとしても、乱暴な行為をした選手が、次のプレーに関わる前に止めることです。関わる前に止めレッドカードを示し間接FKで再開。関わる前に止められず、関わってしまいまた乱暴な行為をした場合は、最初のDOGSOについてレッドカードを示します。レッドカードを2回示すことはなく、報告書にも1枚として記録し、重要事項で2度目の乱暴な行為について詳細に記述することとなります。現実には起こることはないと思いますが、そのようにテンションが上っている状況で、すばやく始めさせること自体、主審にも大きな責任があると思います。

【令和元年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技 審判員研修会 報告書】

函館地区 高橋 海星

7月25日(木)南城市役所

17:00 競技規則テストを行った。

19:00 1級、U22、地域派遣、県内審判員が集まり、全体ミーティングを行い、大会要項の確認と競技規則改正についての講義を行った。

7月26日(金)南城市陸上競技場、南城市役所

5:45 モーニングトレーニング

9:30 佐賀北 VS 徳島市立 AR1担当

インストラクターより、主審の見えにくいところでのファウルサポートを褒めていただいた。また、シグナルも美しくわかりやすいとのコメントをいただいた。

17:30 研修会

動きとポジショニング」、「判定」の2つを中心にいくつか設定された場面に分かれ行った。私は、副審の動きとポジショニング、得点時の判定についての講義を受けた。副審の動きとポジショニングでは、Jリーグの副審研修でも使われている映像を観て副審がその時に何を考慮して動きとポジショニングを決めるのかを話し合った。得点時の判定では、ボールがゴールラインを割ったが、ゴールを支えていた土囊にあたってしまい、跳ね返って得点を認めなかったという事象をどのようにしたら防げたのかというディスカッションを行った。土囊にあたる可能性が少しでもあるのなら、土囊を置かない、ネットの張り具合を強く張らないなどの意見が出てまとまった。

7月27日(土)吉の浦ござる陸上競技場、南城市役所

5:45 モーニングトレーニング

9:30 水戸商業 VS 富山第一 AR2担当

インストラクターより、スローインの指し間違いが試合中にあったシーンでは、副審の持っている情報がいまいきな時は主審を見てシークレットサインやもっている情報をもってからシグナルをすると指し間違いがなくなるというアドバイスをいただいた。また、ゴールキック時のボールの監視を終えた後、よりスピードをもってオフサイドラインにつくと見栄えが良いともアドバイスをいただいた。

17:30 研修会

この研修会に参加している1級審判員より、競技規則改正の部分の実演指導があった。競技規則に書かれている文字を実際の事象に照らし合わせながらの指導だったため、非常に分かりやすく不透明だった部分が明確になった。

7月28日(日)南城市陸上競技場

5:45 モーニングトレーニング

9:30 観戦研修

12:00 観戦研修

まとめ

今回の研修では、外からピッチを見ることが多く主審をやっているときには気付きにくかった試合の温度、試合の雰囲気、ファウル意図を感じ取ることができました。1級審判員の方々はそれらを感じ取り次に何が起きるかを想定しながらマネジメントを行っていた点はお手本になりました。また、北海道ではなかなか味わえない暑さや、クーリングブレイクと飲水タイムを一試合に4回取る経験が北海道ではなかなかできなかったのも、とても良い経験となりました。暑さ対策や会場でのお手伝いをしてくださった沖縄県協会と沖縄県高体連の皆様、この研修に参加させてくださった北海道協会と北海道高体連の皆様、ありがとうございました。



【令和元年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技審判派遣(北海道)報告書】

道北地区 増田 裕之

令和元年7月25日から7月28日の期間、沖縄県で行われました、令和元年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技において審判員として派遣させていただいた内容でご報告させていただきます。研修会や講義などの詳細を以下に記載致します。

【研修スケジュール】

7月25日(木)	7月26日(金)	7月27日(土)	7月28日(日)
集合・競技規則テスト	1回戦(20試合)	2回戦(16試合)	3回戦(8試合)
	金武町陸上競技場(2) 金武町フットボールセンター(ローン)(2) 金武町フットボールセンター(人工芝)(2) 南城市陸上競技場(2) 恩納村赤間運動場(人工芝)(2) 北谷公園陸上競技場(2) 吉の浦公園ごさまる陸上競技場(2) 西原町民陸上競技場(2) 黄金森公園陸上競技場(2) 東風平運動公園サッカー場(2)	金武町陸上競技場(2) 金武町フットボールセンター(ローン)(2) 南城市陸上競技場(2) 北谷公園陸上競技場(2) 吉の浦公園ごさまる陸上競技場(2) 西原町民陸上競技場(2) 黄金森公園陸上競技場(2) 東風平運動公園サッカー場(2)	金武町フットボールセンター(ローン)(2) 南城市陸上競技場(2) 北谷公園陸上競技場(2) 吉の浦公園ごさまる陸上競技場(2) 黄金森公園陸上競技場(2)
研修審判員 集合場所			
ユイinchホテル南城			
南城市役所 2F会議室219	南城市役所 1F大会議室	南城市役所 1F大会議室	南城市役所 2F会議室219
起床	起床	起床	起床
	5:45 モーニングトレーニング	5:45 モーニングトレーニング	5:45 モーニングトレーニング
	6:00 朝食 2F宴会場「希望」 or 6Fレストラン「感謝」	6:00 朝食 2F宴会場「希望」 or 6Fレストラン「感謝」	6:00 朝食 2F宴会場「希望」 or 6Fレストラン「感謝」
6:30 モーニングトレーニング (場所:ホテル前)	6:30 ホテル出発:赤間・金武陸上 ホテル出発:金武FC(ローン・人工)	6:30 ホテル出発:金武陸上 ホテル出発:金武FC(ローン)	6:30 ホテル出発:金武FC(ローン)
7:00 朝食 2F宴会場「希望」 or 6Fレストラン「感謝」	7:00 ホテル出発:黄金・北谷・西原 ホテル出発:ごさまる・東風平	7:00 ホテル出発:黄金・北谷・西原 ホテル出発:ごさまる・東風平	7:00 ホテル出発:黄金・北谷 ホテル出発:南城
	7:15 ホテル出発:南城	7:15 ホテル出発:南城	
	7:40 各会場到着	7:40 各会場到着	7:40 各会場到着
	8:00 ビッチインスペクション	8:00 ビッチインスペクション	8:00 ビッチインスペクション
8:30 ホテル出発 バス移動	8:20 第1試合MCM	8:20 第1試合MCM	8:20 第1試合MCM
9:00 NC研修③ プラクティカルトレーニング 場所:東崎公園サッカー場	9:30 第1試合	9:30 第1試合	9:30 第1試合
12:10 研修会場出発	10:50 第2試合MCM	10:50 第2試合MCM	10:50 第2試合MCM
12:25 ホテル到着			
12:30 昼食(弁当)	12:00 第2試合	12:00 第2試合	12:00 第2試合
13:30 研修審判員空港出発(送迎①)			
13:30 NC研修会④ 南城市役所 2F会議室219	各会場反省会	各会場反省会	各会場反省会・解散
15:30			
16:00 研修審判員空港出発(送迎②)			
16:00 インストラクター全体打ち合わせ	14:00 各会場出発	14:00 各会場出発	14:00 各会場出発
16:00 県内審判員集合・受付	15:10 ホテル到着	15:10 ホテル到着	15:10 ホテル到着
16:30 研修審判員集合・受付			
17:00 オープニング・競技規則テスト 南城市役所1F大会議室	17:30 研修会	17:30 研修会	17:00 全体ミーティング
18:00 夕食 2F宴会場「希望」 or 6Fレストラン「感謝」	18:50 研修会終了	18:50 研修会終了	18:00 全体ミーティング終了
19:00 開講式(全体)	19:00 夕食 2F宴会場「希望」 or 6Fレストラン「感謝」	19:00 夕食 プールサイドテラス 懇親会を兼ねる	18:30 夕食 2F宴会場「希望」 or 6Fレストラン「感謝」
大会要項の確認 競技規則の改正等			
21:00 研修終了		21:30 夕食(懇親会)終了	
県内審判員・研修審判員 競技規則テスト 別途時間指定→研修会終了後		県内審判員は、各会場または ホテル帰着後に解散。研修会 を先におこない、夕食は懇親会 と兼ねる	研修審判員は、各会場または ホテル帰着後に解散

【1. 講義・研修会】

7/25 17:00～ 研修①

場 所:南城市役所 1F 大会議室

テーマ:競技規則テスト

内 容: サッカー競技規則の理念と精神に関わった穴埋め問題、競技規則改正に関わる正誤問題、記号問題、競技規則に載っている図の説明問題、用語問題が出題された。

7/25 19:00～ 研修会②

場 所:南城市役所 1F 大会議室

テーマ:競技規則改正について

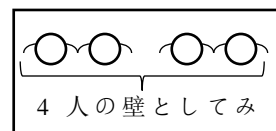
インストラクター: 太田潔氏

内 容: サッカー競技規則2019-2020に関する競技規則改正をテーマとした研修会であった。特に、

①ドロップボール②フリーキックの壁が3人以上のときのマネジメント③ゴールキック(PA内のフリーキック)の際の再開方法④ハンドリングの4つの点についての解説があった。

①については「最後にボールが触れた位置で、最後にボールに触れたチームの一人にドロップする」という点に注意しなければならない、決して、笛で止めた位置ではないこと、最後に触れた選手にドロップするわけではないことが強調されていた。

②については、例えば、3人以上が連なった壁でなくても、右の図のような場合では3人以上の壁と考えることの説明があった。



③については、例えばPA内のフリーキックが再開されたとき、PA内に守備側競技者がいたとしても、それが待ち構えていたわけではないのであれば、やり直しをする必要はないことの説明があった。(中盤でのフリーキックの再開時と同じ考え方)このことに関して、リスタートしてくるチームが今後増えてくることが予想されるので、レフェリーとしては、背を向けて再開を見逃すケースが懸念されるので注意が必要であるとのことであった。

④については「なぜハンドでないのか」の説明をするときに、距離やスピードに関わる理由はなくなったという点が強調されていた。(例えば、選手の身体に触れてから手(腕)に当たった、別の選手に触れたボールが手に当たった、不自然に手(腕)を大きく開いていたわけではなかった、身体を支えるための手に当たった、などの理由が今後は当てはまることになる)

7/26 17:30～ 研修会③

場 所:南城市役所 1F 大会議室

テーマ:動きとポジショニングについて

インストラクター:泉弘紀氏

内 容: 私のグループでは「ゴールインの判定」「レフェリーが下がって観るときに起こるデメリット」という2つのテーマが割り当たった。

ゴールインの判定については、明治安田生命 J1 リーグ第 12 節の浦和レッズ vs 湘南 ベルマーレの一戦で、湘南 MF 杉岡大暉のゴールが認められなかったケースのような事象が起きないように、どんなことに注意しておく必要があるか、ということについてディスカッションした。フィールドチェックの際に、ネットが張りすぎていないか、土のう等のボールが大きく跳ね返りそうな物が置かれていないかを確認することが重要であること、副審はポジショニングが遅れるなどしてゴールインの瞬間を見逃さないように注意する必要があることが話し合われた。

レフェリーが下がって観るときに起こるデメリットについては、大概視野が狭くなり、見えるものが少なくなってきたときに起こるものであり、ボール周辺の競技者だけでなく、遠い方に位置している競技者の存在、ボール状況等を常に考慮しながらポジショニングをとるという意識が重要であることが話し合われた。

7/27 17:30～ 研修会④

場 所:南城市役所 1F 大会議室

テーマ:プラクティカルトレーニング(競技規則改正に関わって)

インストラクター:泉弘紀氏、一級審判員の方々

内 容: 4つのグループ(①フリーキック時の壁のマネジメント、②ベンチ役員の異議等への対応、③ゴールキック(PA内のフリーキック)の再開、④ドロップボールの対応)に分かれてプラクティカルトレーニングを行った。

- ①フリーキック時の壁のマネジメントでは、時間差で壁が増えた場合(二人の壁にもう一人後から入ってくるようなケース)も攻撃側競技者を1m以上離さなければいけないというケースを学んだ。
- ②ベンチ役員の異議等への対応については、4thの役割が重要であり、4thとしてそのベンチ役員の誰が、どのような行動をとったから、どのような対応(注意、警告、退席)が必要であるかを明確に伝えることが必要であることを学んだ。特に、異議を示したときの役員の行動(言葉)の悪質さは、その瞬間に近くに見ていた(聞いていた)4thにしかわからないものがあるので、4thの役割として自信を持って対応する必要があることがわかった。
- ③ゴールキック(PA内のフリーキック)の再開については、研修②のときに説明されたケースについて具体的に説明していただいた。
- ④ドロップボールの対応については、特に、GKのパントキックが行われた後に両チームの競技者が競り合って(ボールには触れずに)負傷したときに、プレーを止める際の対応の仕方について学んだ。この場合止めるタイミングが重要であり、笛が遅れたら、その間に他の誰かがボールに触れてしまっていたり、そのまま流れたボールを相手GKがキャッチしたりして、再開方法が望ましくないケースになる可能性もあることから、見極めが重要であることがわかった。

【2. 担当した試合について】

7/26 12:00キックオフ 《 日体大柏(千葉)0-0(PK 4-5)五条(奈良) 》

担当:主審

場所:北谷公園陸上競技場(天然芝)

天候:晴れ

気温:30.7℃

インストラクター:倉原英弘氏

内容:初めての全国大会での主審ということで非常に緊張した状態であった。また、クーリングブレイクと飲水タイムをとるということで、いつも以上に時間管理を意識しなければいけなかった。警告を出すべきシーンではしっかりと警告を示し、対応することができた。アドバンテージを上手く適応することもできた。試合中、五條高校の選手から観客席からの野次が気になるという申し出に対して、ハーフタイム時に運営の方に報告し対応してもらった。後半になってからは落ち着いたので、選手はストレスなくプレーに集中できていたと思う。インストラクターの方からいただいた助言の中で課題としては「公平・公正」に関わる部分をしっかりと対応しないといけないということであった。日体大柏高校はロングスローを多用するチームであったが、正しい位置から行われてなく、再開場所に関して対応したのが、27分のときが最初であったので、最初のときに明確に示すことが大切であるという指摘を受けた。また、フリーキックのときにすぐに笛で止めて10ヤードをはかっていたが、まずはクイックの保障をすべきで、近づく守備側競技者に「離れなさい」と注意することがはじめにやることであるという指摘を受けた。また、壁をつくる際にボールを見ないでいるので、仮にそのときボールが1mずらされてもわからない。公平・公正の観点から、ボールの監視はしておかなければいけないという助言をいただいた。

7/27 9:30キックオフ 《 高知(高知)4-0 西武台(埼玉) 》

担当:第4の審判

場所:金武町フットボールセンター(ローン)

天候:晴れ

気温:28.0℃

インストラクター:倉原英弘氏

内容:第4の審判員として交代の手続きと研修会でもあったベンチコントロールの対応などを意識し臨んだ。前半および後半にそれぞれクーリングブレイクと飲水タイムがあったので、アディショナルタイムの表示を間違えないように気をつけた。また、時間管理を主審と確認しあいながら試合を進めた。ベンチ役員による異議は全くなかったので特に対応する機会はなかった。インストラクターからは特にコメントはなかった。

7/28 9:30キックオフ 《 大分(大分)0-0(PK 7-8)徳島市立(徳島) 》

担当:副審2

場所:金武町フットボールセンター(ローン)

天候:晴れ

気温:31.5℃

インストラクター:黛俊行氏

内容:アシスタントレフリーとして、オフサイドラインキープをするためのステップワークやファールサポートを意識し臨んだ。良かった点については、前半開始2分でのSPAに当たる反則に対して笛とほぼ同時にフラッグアップしたり、警告対象者の確認を主審と行ったりするなど、適切な援助をすることができた。また、オフサイドとなったゴールシーンがあった際に、タイミングが遅れることなくフラッグアップしそれに合わせて主審も笛を吹き、異議が生まれないような判定を協力して行うことができた。また、主審がスローインの方法について注意していた選手が反スローを犯したときにファールサポートすることができ、主審のマネジメントに協力することができた。課題としては、副審から遠いサイドでの戻りオフサイドのシーンで、早めに旗を上げてしまった。インストラクターの方からはもう少し待てばその選手が関与していたかどうか、影響があったかどうかが見極められたのではないかと助言をいただいた。

【3. 研修会を通して】

今回、令和元年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技に審判員として派遣させていただき、試合経験はもとより、改めて競技規則の精神に当たる部分の重要性を実感しました。これまでの自分は試合中において、どういう事象がファールとなるかという部分にしか焦点を当てられていない傾向があったため、スローイン(再開位置)、フリーキック(壁、リスタートの保障)の際のマネジメントに課題がありました。今回の研修における試合でも上記のマネジメントに課題がありましたが、試合後にインストラクターの方から「公平・公正」の観点からアドバイスをしていただき、これまでの経験(悩み)を整理することができました。判定する力を高めていく上で、様々なケースを見て、ファールなのかどうか、警告なのかどうか、という勉強を積んでいくことも必要ですが、そもそも審判員として何を大切にすべきなのかという理解が大事であることに気づくことができました。

他にも、安心・安全を保障するという点もありますが、そのような競技規則の精神の観点から一つ一つの事象を捉えて判定していく、審判として関わるのが求められるのだと思いました。

また、本大会を準備、運営して下さっている多くの方々に感謝し、一つの試合を成立させることの大変さを改めて感じる事ができました。今回の研修を活かし、今後の審判活動に活かしていきたいと思えます。最後になりますが、今回の派遣において北海道サッカー協会のご協力に感謝致します。ありがとうございます。